

北海之光

10月号 北海道教区報

主はわたしたちに道を示される
わたしたちはその道を歩もう

イザヤ書2章3節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴



そうすると若い頃からの自分の歩みが思い起こされる。説教によってつまづきを与えたこと、独断専行による牧会、主任司祭への無相談、歴史ある幼稚園の閉園決議等、枚挙に暇ない。身に深く無力さを

「イエス・キリストよ、

ツミビトの私を憐れんでください。」

函館聖ヨハネ教会嘱託司祭

今金インマヌエル教会嘱託協働司祭

司祭 ダビデ 藤井 八郎

八月末、主治医から一〇月迄かなと二度目の告知があった。これまで笹森主教様、植松主教様、同労の教役者、信徒、近隣の方々の祈りと励ましを心から感謝申し上げます。

分の歩みが思い起こされる。説教によってつまづきを与えたこと、独断専行による牧会、主任司祭への無相談、歴史ある幼稚園の閉園決議等、枚挙に暇ない。身に深く無力さを

感じたのは、牧会訪問。祈りや愛が欠けていたのか。幼児洗礼を勧めた時、父親に言われた「大人になって自分でめたらしいのでは」と。少しでも教勢をあげたい、自分の子たちへの導きもそこそこであったので痛い言われ様であった。

相澤誠四郎司祭の「カテキズムの研究」には受洗している親は安全な岸辺に立ち、溺れている子に言う。「ここまで泳ぎついたら助けてあげよう」と。深い意味を持つように思う。子ども達はやがて成長し、娘は生涯を共にしたいと結婚の承諾に男を連れてくる。緊張に身を張りつめながら、「娘さんを嫁に」と。父である司祭は「お前さんが教会に行き、洗礼を受け、子ども達にも洗礼をうけさせるならOK」と断固にして明瞭に

は言えない。自分の優柔不断さに、つくづく嫌気がさすような性格を思い知ったものである。しかし一方、嫁達は、かつての主の女弟子たちの様に思える。素直で直感的な女性の感性を働かせ、教会の交わりの中で育てあげられ、結婚を機に教会を支える者の一員として成長している。本当に有難いことだと思う。そして子ども達も教会生活の中で、活気に溢れてすごしている現状を見ることは、大きな幸せである。

有珠の信徒の某姉がご健在のころ、ご長男の結婚式も近い時、「先生から教えてもらいなさい。うちはキリスト教よ！洗礼を受けなさい。」彼女の生涯の中で、これ以上の時を得た宣教はないだろう。やがては孫たちも救いにあずかる。神様がそこにおられたのだから。みんながこれを実践するなら、教会は変革する。教会は信徒あつての教会、その頭は司祭ではなく、神。神の下で主様の力が生かされる。司祭は徹頭徹尾仕える者。私の思い通りに信徒を動かすのではない。すべてが主の栄光のために、自分を無にして

生きるところに主が働かれ、祝され、導かれ恵まれる。愛し祈ってこそ赦されることを覚えない。どれほど生きるのか。生かされている限り、誠実に忠実にお仕えますからお用いくださいの日々。人はどの様にもがいても、すべては主の御手に包まれている。病にあつても哀しみにあつても、喜びと平安のうちにあつても主が先導し、道を備えてくださる。今を生かされて生きることを悟るのは難しいことかもしれないが、突き詰めるなら、これ以上の道はないのではないか。主イエス・キリストによってこの世に生かされていることを知るばかりである。

老司祭と云われる自分が、今も主の前に仕えていられる。確かに老害あつて一利なしの境地なのだが、感謝してもしきれない現実が、あふれるばかりの恵みとして波のように押し寄せてくる。ただ今は、「神様、有難うございます。」イエス・キリストよ、ツミビトの私を憐れんでくださいと祈るばかりの幸いを覚えていく。云い尽くせぬ感謝の中で。



—心の窓をひらく—

福音と私(二七四)

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

今金インマヌエル教会信徒

アンナ 平野 睦

【私の好きな聖句】

「主与え、主は奪う。主のみ名はほめたたえられよ。」

ヨブ記一・二二節

神様の導きにより、主人俊春と共に、生きるようにしてくださいました。婚家はキリスト教でした。洗礼名アンナを得、下澤昌司祭様によって導かれ、信徒として一九年しか経っておりません。ある日、教父母のひとり、近所の山崎二三子姉がこられ、若い人たちが協力して楽しい家族のような教会にしたい。私は、教会は年寄りがすべてを決めて行うものであるという現実の中に、礼拝出席はよほどのことがなければと、遠のいておりました。けれども、教会は高齢者ばかりではなく若い人たちが加わり、小さなこ

とも、大きなことでも、それぞれが役割を持った楽しくあたたかな家族のようでありたい、との説得に心が動かしなりました。そのためには大きな厚い壁を、痛みをもって乗り越えなければなりません。少しずつ新しい仲間が集まり、お付き合いが始まりました。また私自身もそのような中で、ご先祖様からの信仰を守り生活したいという思いを強くしました。若夫婦亮介と望、二人の孫、楓(かほ)と瑛(えい)蓮に恵まれ、家庭の中の安らぎと平穏を得た日々を送るようになりました。家業は農業です。だんだんに年を取り健康に不安を覚えるようになりましたが、互いに支え合っ

て過ごしております。時に夫と話し合うのです。将来シェアハウスを作り、教会関係のご高齢の方々を日々助け支えて生活したいものだと言話し合っております。家業は男爵イモ、大豆、小麦、そば、ビールですが、広い畑の中で大型機械の上からユーラップ・狩場山を望む毎日は晴れ晴れするものです。しかし、老年期に入った私たちにはだんだんと重く感じられ、若い夫婦の支えによって今を生かされていることを、本当に幸せなことを思っております。孫や主人の闘病など、不安の中で司祭さんの訪問と祈りは、私たちの生きる励ましとなっております。本当に神様が私たちに与えてくれた時を、今すぐしているのだと実感するので、全てが恵まれ、守られています。だから、御心のままに歩みたいと願っています。たとえ最愛の人と別れ、寂しさを覚えても、私も神様の恵みの下にあると信じ、今精いっぱい人に尽くして生きようと思っております。体が動き、働けるうちは教会の必要に応じて捧げ、祈る生き方を貫きたい

と願っております。そして、いかと信じております。神様がこの小さな願いを受け入れ、導いてくださるようになりたいを、親族皆が喜んで歓迎していただける生き方なのではないかと信じております。

教区婦人会第四〇(定期)総会開催される

九月七日(木)、札幌キリスト教会を会場に教区婦人会総会が開催された。開会聖餐式の説教者として前北海道教区主教植松誠師を迎え、オルガン奏楽者は植松三千代さんが担当された。約百名出席。植松主教は、今、仕えている岡谷聖バルナバ教会の女性たちの奉仕に言及され「奉仕に専念」することの尊さを語られた。尚、信施は網走の小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム)「のあ」(代表・飯野まゆみさん)にささげられた。

議事は順調に進行し、会長選挙となる。選出方法として役員会から提案があり、今回個人を選出するのでなく、会長を立てる教会を選出したい旨の説明があり、議場はそれを承認。投票の結果、札幌キリスト教会が選ばれた。最後、東北教区婦人会を代表して陪席された東北教区婦人会会長赤坂康子さんからの挨拶を受け、四年間、会長職を担った神林直子さんに感謝し終了した。

(文責 司祭 池田 亨)

常置委員会報告

第一一回 九月一四日

《協議事項》

一、チーム北国の委員増員について
 ・宣教協働セクションに、三浦千晴執事・丸山悦子さん

(函館聖ヨハネ教会)
 ・和田啓佑さん(札幌キリスト教会)を加えることとした。

・広報セクションに、鈴木康さん(札幌キリスト教会)・木村夕子司祭を加えることとした。

二、教区会提出議案について
 ・給与規定の改定
 ・聖マーガレット教会の土地取得に関する件

・宣教協働についての議案三つ
 ①宣教協働資金を設ける件
 ②チーム北国継統の件

③東北教区・北海道教区宣教協働・教区再編に関するミッションステートメントの件

三、映画『沖繩、ふたたび戦場(いくさば)へ』に対する協賛について
 ・制作協力金として、三万円を支出することとした。



主教室から

九月二三日、大韓聖公会大田教区主教按手式・着座式が天安市で行われ、第八代大田教区主教ティトス金ホウク主教が誕生しました。

会場近くには主教按手式を告げるバナーや横断幕が道路脇に設置され、その意気込みや喜びの大きさを垣間見るようでした。日本聖公会の七名を含めた海外からのゲストも七管区一〇数名となり、大田教区の聖職・信徒の方々と喜びをともにできたことは大変感激的な出来事でした。印象深かったのは、按手式の最後に新主教とともに聖職全員でささげられた聖歌の美しい歌声でした。ひとつにな

った歌声にこれから大田教区の歩みが象徴されているようで、神様の祝福と導きを祈りました。

この度の訪韓では、もうひとつの大事な出会いがありました。

五年前、日本聖公会での女性の司祭按手二〇周年感謝プログラムが東京で開催された折、大韓聖公会から三名の女性の聖職たちがお祝いに駆けつけてくださいました。それは何よりの大きな励みだったことを思い出します。しかしその三年後、大韓聖公会での女性の司祭按手二〇周年の際には、世界的パンデミックの故に韓国にお祝いに向くことができませんでした。日本聖公会女性デスクから依頼をいただき、ビデオメ

ッセージをお送りしました。神の家族として、また記念の意義を共感する者として、お祝いのメッセージをお届けできたことは大変光栄でしたが、やはりお会いしたかったという思いが残りました。

この度、主教按手式の次の主日礼拝でお訪ねした全州教会は、日本聖公会二〇周年のお祝いに来てくださったお一人、デボラ金ヒョン司祭が司牧する教会でした。なんとというお取り計らいでしょうか。久しぶりの再会に歓喜し、金ヒョン司祭の丁寧な牧会、そして社会とのつながりを深くもった生き生きとした教会の姿に力をいただき、帰路に着きました。感謝の旅でした。

義 マリア・クレス 笹森 田鶴

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

一月八日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 J・ウイリアムス

一九二〇年一月一日

主教 W・アンデレス

一九三二年一月一日

主教 前川 真二郎

一九五三年一月一日

伝道師 A・M・エバンス

一九五一年一月二日

執事 町田 巖

一九九七年一月三日

執事 中西 弘

一九八九年一月七日

伝道師 鈴木 雅彦

一九九三年一月二日

伝道師 松本 ジョウ

一九七八年一月一四日

伝道師 ルーシー・ペイン

一九三二年一月一七日

伝道師 西田 喜一

一九六一年一月一八日

伝道師 M・ブラウンロー

一九二二年一月一九日

伝道師 渡辺 誠

一九四八年一月一九日

主教 G・J・ウォルシュ

一九七二年一月一九日

司祭 雨宮 大朔

二〇一五年一月一九日

執事 富田 恒躬

一九四〇年一月二日

司祭 鈴木 善四郎

一九一八年一月二六日

伝道師 A・M・タブソン

一九四〇年一月二六日



宣教一五〇年実行委員会報告 Ⅷ

みなさんこんにちは。宣教一五〇年実行委員会です。今回も現在の進捗状況をいくつかお知らせいたします。

まず、記念礼拝についてです。何度かお知らせしている通り、北海道教区宣教一五〇年記念礼拝は二〇二四年七月一日(月)です。この日は祝日になっております。一〇時半からスタートする予定をしております。また、説教者は中部教区の西原廉太主教に決定しました。西原主教は二〇一三年に行われた教区修

司祭 サムエル 吉野 曉生

養会の講師としていらしてくださり、二〇一二年の宣教協議会以降の北海道教区の宣教の方向性を示してくださいました。再びこうして宣教の節目に説教者としてお招きできることを感謝いたします。

多くの方からお問い合わせをいただいておりますが、二〇二四年は毎年五月に行っている「教区礼拝」を行いません。七月の「宣教一五〇年記念礼拝」にご予定を合わせてくださるようお願いいたします。わたしたちの説明不足でわかりにくくて申し訳ありません。二〇二四年は5月の教区礼拝が無く、七月の宣教一五〇年記念礼拝となります。

続いて先月少しお知らせした「黙想会」についてです。二〇二四年二月の大齋節に小樽聖公会で第一回を行います。また、第二回は四月に道東で行う予定をしています。時間は一〇時から一五時で、

昼食をはさみながら黙想する予定です。講師は各教会の教役者にお願ひし、全五〜六回、各地で開催いたします。遠方からの参加の方には交通費等の補助も検討中です。

また、各教会・施設に「記念誌」の原稿執筆のお願いを

全国青年大会

二人または三人が私の名によって集まるところには、私もその中にあるのである」

札幌聖ミカエル教会信徒

ミカエル 直井 岳

表題は、マタイによる福音書の一節で、今回の青年大会の主題聖句です。「集まる」。この言葉は、ここ数年私たちがから遠ざかってしまった言葉ではないでしょうか。「集まる」ことは、顔と顔をあわせて相手と直接会話ができて、そこにはZOOMなどの画面越しでの会話と比べて、はるかに相手を深く理解でき、新しい経験や体験、出会いとつながりがそこには必ず生まれま

す。大会は、三泊四日の日程で、東京教区の神田キリスト

しています。お忙しいこととは思いますが、ご協力をお願いいたします。

いよいよ二〇二三年も残り二か月ほどになってきました。みなさんに主の恵みが豊かにありますように。それではまた来月。

教会を拠点に行われ、三〇人以上の青年が日本各地から集まりました。共に祈り、聴き合い、多くの時間を共に過ごし、そこには、教会や教区を越えた新たな出会いとつながりが生まれました。老若男女がひとつの場所に集まれたのは、決して道は真直ぐではなくとも、神様が一人ひとりを導いてくださったのだと思います。

大会中のプログラムは、全体を通して「聴く」ということを大切にしているなど感じました。何人かのスピーカー

よりお話を聴き、さらにグループシェアリングでお互いの思いを聴き、いろいろな方々のお話を聴く機会を与えられました。

グループシェアリングでは「新型コロナウイルス」をテーマにしたグループで、分かち合いの時間をもちました。コロナ禍の中で、一人ひとりが抱えていた問題はその人たちの生活に確実に大きな影響を与えていました。孤独、苦しみ、根拠のない誹謗中傷や差別、生活の変化。数えきれない負の連鎖を経験したのです。そのようなディスカッションの中、「取り戻すためではなく、新しいものを自分たちでつくりだすことも大切だと思う」との言葉が心に響きました。

私は、教えられました。私たちは決して孤独になることはありません。どこで誰と食卓を囲もうと、どこに向かつて誰と歩んでいようと、そこには信仰の友、そして必ずイエス様があることに一緒にいてくださるのです。





からの呼びかけ
(コール)に
えていきたい
思います。一
月の宣教協議
会

宣教協議会プログラム2

ぶどうの枝だよりも第一〇号となりました。清里での宣教協議会開催も近づいて参りました。今回は前回第九号の続きとして、宣教協議会のプログラムの中からいくつか紹介いたします。

「宣教協働区アワー」

このプログラムは、東日本宣教協働区、中日本宣教協働区、西日本宣教協働区ごとに分かれて時間を過ごします。内容については各宣教協働区の協働委員の皆さんに考えて頂きますが、日本聖公会総会で宣教協働区制への道を歩むことをご提案された主教会からのメッセージを思い巡らせたり、これまでなかなかお目にかかることの出来なかった協働区のメンバーと一緒に昼食を食べながら、出会いと交わりが豊かになることを願っています。

「清里コール」(仮称)

今回の宣教協議会の集大成でもあります。何か「宣言」というような形式ではなく、「呼びかけ」のような形式でまとめていきたいと考えていて、私たち実行委員会では仮に「清里コール」と呼称しています。宣教とは、神様が主体となって進められている、神の国の成就を目指す絶え間ない働きです。私たちはこの働きに招かれています。

そしてその招き(コール)は今の時代、そしてそれぞれの状況においてどのように変化してきているのか、私たちはそれを机の上で考えるのではなく、一〇年の実りを持ち寄り、私たちのあゆみ、物語を聴き、いのちの現場で働かされている五人の講師の皆さんからお話を伺い、そしてグループに分かれて思いを分かちあうことによって神様

に至るすべてのプロセスが「清里コール」へとつながっています。

コールについてのイメージですが「難しい言葉を使わない」、「強制されるものではなく、非難の対象とされるものでもなく、教会の宣教を主体的に担っていくきっかけとなるもの」、そして何よりも大切にしたいことは清里コールによって皆が励まされ、元気になる内容にしたいと思っています。

「礼拝について」

宣教協議会を支える礼拝について最後に紹介します。

礼拝はセーフチャーチワークینگグループ、祈禱書改正委員、青年の皆さんに協力を頂き豊かな祈りの時間を持つ予定です。神様の御声に耳を傾け、となりびとのために代祷を献げ、聖歌を賛美する事も神様からの呼びかけに応え

る大切な時間です。コロナ禍を経て開催されようとしている宣教協議会です。

清里に実際に集まる参加者のみならず主を信じる信仰の仲間とご一緒に神の国への呼びかけに応えて参りたいと思います。

(文責:越山 哲也)



北海道教区のみならず、初めまして。東北教区・北海道教区宣教協働の取組みのひとつとして「お互いの教区にどんな教会があるのか知りた」という声にこたえるため、北海道教区報には北海道を、東北の教区報には北海道の教会を紹介する記事を連載することになりました。次号ではまず主教座聖堂仙台基督教会を紹介し、その後、各教会の紹介記事を掲載していく予定です。

東北は縦に長く青森、岩

手、秋田、宮城、山形、福島
の六県です。東北教区には一八の教会、三つの伝道所、一つの礼拝堂、一六の幼稚園、十和田湖畔には宿泊可能な施設「ヴァイアール山荘」があります。現任の聖職は、七名の司祭、長谷川清純主教は二〇二三年四月に着座されました。

(東北教区広報グループ 福土恵美)

公 示
日本聖公会北海道教区第83(定期)教区会を下記のように招集いたします。
救主降生 2023年10月1日
日本聖公会北海道教区
教区会議長 主教 マリア・グレイス 笹森 田鶴
記
日時 2023年11月22日(水) 午後3時より
2023年11月23日(木・休) 午後3時まで
場所 日本聖公会北海道教区主教座聖堂(札幌キリスト教会)
札幌市北区北8条西6丁目2-18
なお、本教区会書記及び教区会会計を下記のように指名いたします
司祭 ノア 上平 更晴
執事 エリサベト 三浦 千晴
財政部長 オウガスチン 橋本 知樹
パウロ 横山 光紀

教会だより October



▽稚内聖公会(伝道所)

秋とはいえ今年はやはり気温が高めの稚内です。こうなると、どんな冬になるのか心配ですが、建物が風雪で傷まないよう祈るばかりです。

九月は二一日、聖マタイの日、いつもの三名で聖餐式をお捧げしました。牧師の帰りは日本海側を下するルートで、一九八七年に廃止された旧国鉄羽幌線の線路跡を見ながら、炭鉱や漁業で賑わっていた頃の風景を思い巡らしました。

▽旭川聖マルコ教会

九月七日教区婦人会総会に四名参加、久しぶりに懐かし

い植松主教の説教を聞くことが出来、力を与えられました。一七日「信仰の先輩への感謝礼拝」、八〇歳以上の方々への祝福の祈りを捧げました。

コロナ禍の影響で縮小礼拝が続く中、バザー実施が危ぶまれていましたが、礼拝後に出席者全員からの意見も聞き、委員会で検討した結果、来月の一五日に最小限の負担で行われることになりました。

保育園の運動会も短い準備期間でしたが九日、晴天に恵まれ無事に終わりました。主に感謝！

▽岩見沢聖十字教会

九月七日、教区婦人会が札幌キリスト教会で開催。畠山洋子姉と井上育子姉が出席。懐かしの植松誠主教様が説教者。交わりの時、三千代姉と共にお話に盛りあがりました。お元気で感謝します。

九日、幼稚園では第五四回運動会がスポーツセンターで開催。全ての制限から解放。園児、保護者、先生方は思う

存分楽しみました。嬉しい事に卒園児がお手伝いに来てくれました。二四歳の立派な社会人の女性になっていましたよ。

来月からは二〇二四年度の園児募集が始まります。

▽釧路聖パウロ教会

△厚岸聖オーガスチン教会(伝道所)

厳しい残暑ですがいいよいよ九月第一週。代祷の中で当月の逝去者及び誕生日の信徒が読みあげられ、当日出席の信徒三人が短い感謝のスピーチをしました。九月一〇日、聖霊降臨後第一五主日。この日から第一週及びクリスマス、イースター、主教巡回など特別に大人数が集まる日を除いて集会所で礼拝が執り行われる事となりました。勿論それに伴って祈祷書及び聖歌集、聖書などの置き場所も変更。エレクトーンやマイクもセツトされ、礼拝堂としての体裁も整いました。

初日であるこの日は、吉野司祭のご両親が訪釧され、なかなか新鮮な聖餐式となりました。

▽苫小牧聖ルカ教会

暑い夏でした。鈴虫やコオロギがヒンヤリした夜に鳴き続けています。

した。恒例の「教会問答あれこれ」は十戒の核心「自分を愛する如く隣人を愛せよ」。その本質を深く勉強。話は違いますが、釧路は現在、インフルとコロナがダブル流行。再び注意が求められます。主よ、お見護りを。

▽帯広聖公会

この頃朝晩は肌寒さを感じ、そろそろ秋の気配です。三日、聖餐式と教会委員会。一〇日、聖餐式と「宣教の窓」勉強会。大町司祭より聖公会の特徴が分かりやすく解説されました。一七日、聖餐式と「み言葉の分かち合い」勉強会。ペトロの信仰告白から、自らの十字架を背負っていくことの意味など考える機会になりました。二四日、聖餐式。豊橋昇天教会から箭野眞理司祭がお見えになり、司式・説教していただきました。お茶を飲みながら帯広とご縁もお聞きました。

▽函館聖ヨハネ教会

九月も観測史上最高の暑さでしたが、夏休み終了とともに小・中学校の修学旅行や研修で教会見学の連絡が相次ぎ対応に迫られるも楽しい出会いの機会を持つ。今年も香蘭女学校中学生一七〇名が来教。

一七日木村夕子協働司祭の礼拝ご奉仕でGFS世界会議の報告を聞く。午後から四名のジャズ奏者を迎えて聖堂コンサート開催。約八〇名が懐かしい曲目を楽しむ。

二二日小熊美佐子さんの埋

骨式(藤井司祭)、二三日鈴木芳夫さんの埋骨式(上平司祭)。ご家族の安堵を覚える。

一〇月一日のバザーを控え婦人有志のクッキー作り、献品の値付け、藤井司祭手書きの立て看板等々、皆の協力で準備着々と進む。

▽平取聖公会

九月三日の日曜日にバチラー保育園の運動会が晴天の下開催されました。今年はお園舎の跡地を整備した園庭で行いました。コロナ感染を考慮し、またこども園化でクラス増えたため下級年次と上級年次を分けての開催でした。

教区婦人会総会には二名が出席しバザーにも出品できました。

一昨年にバチラー展を開催した平取町立アイヌ博物館で、今年は一〇月三日から医師で人類学者であったN・G・マンロー博士の「二風谷に生きたマンロー先生」展が開催されます。バチラー師との関係や記念式が行われた折の写真等が展示されます。

▽網走聖ヘテロ教会

暑い暑い今迄体験した事のない猛暑の網走でしたが、九月に入り朝晩少し気温低下。教会の周りはコスモス一杯ですが、一七日の主教巡回礼拝も、暑さが残っていました。久々に皆で礼拝後カレーを食べ、希望して小笠原諸島のお話を伺いました。沖縄の少し前に返還された事や、その歴史の中での島の方々の暮らしを、少し知る機会になりました。二四日はグンと涼しくなり、礼拝堂と集会室の仕切の壁を閉じて礼拝。網走マラソン5kmに息子が出場するお母さんが、礼拝出席でした。

▽有珠聖公会

九月二四日、聖餐式。礼拝後、いつものように賑やかに茶話会を楽しみました。

伊達市教育委員会の協力によりバチラー師が伝道旅行に携行した幻灯機とガラススライドを用いての映写に向けて調査と研究が進んでいます。スライドは、八四枚に及ぶカラーと白黒の物である事が判明、状態はとても良いようです。

す。一月三日には、伊達歴史文化ミュージアムにおいて大町司祭の解説での映写会が予定されています。

▽留萌キリスト教会

暑さが長引く九月、寄贈された扇風機が首を振って大活躍です。

委員会では来年度の教区奉献額を話し合い、教会建物の修繕に備える必要性を考慮して回答を出しました。これからも皆で元気に礼拝しましょうねという結論です。この願いは神様がきくと聞いてくださると信じています。

委員会終了後には、千葉雅子さんが抹茶とお菓子を用意され、お点前の稽古をしてくださいいます。ワイワイ言いながら袱紗捌きを習いました。が、来月まで覚えているかな？

▽札幌キリスト教会

暑さの去らない中、初秋の行事で大忙しの札幌キリストです。九月二日(土)、日曜学校同窓会が開催されました。九月三日、一〇〇名以上の方々により墓地礼拝が無事

に行われました。九月一日、長寿会のお祝いとして歌も二曲、楽しい愛餐会になりました。八日と一五日には、さっぽろレインボープライド関連企画としてトークイベントと祈りの会を開催。一八日(月祝)には規模を戻してのバザーを実施しました。

九月三日にご逝去されたマリヤ中村頼子さんの魂の平安を祈ります。

▽札幌聖ミカエル教会

上平司祭は、八月末から東京で行われていた全国青年大会から戻ってすぐコロナに感染してダウン。無事に復帰していますが、声はまだ本調子ではない様子。季節の変わり目の体調管理は大事ですね。

第二土曜日には久しぶりの中高生会が開かれました。一七日は子どもと共に捧げる礼拝。その後、子ども達で作った祝敬老カードが七五歳以上の皆さんに配られました。二四日は、幼稚園のみなさんとの合同で教会バザーを実施。天気にも恵まれ、賑やかな一日となりました。

▽新札幌聖ニコラス教会

地下室の廃材整理が終わり、カビ臭も消えてホッと一安心しています。しかし、今度は石油の臭いが充満するようになり課題は尽きません。調べてみると、地下室の灯油ボイラーから油漏れしていることがわかり、灯油の元栓を締めて様子をみています。来月は礼拝堂と玄関フロアの床洗浄の実施が決まりました。一つひとつ環境が整えられていることに感謝しています。

綺麗になった礼拝堂に、皆さまもぜひ足を運びください。

▽聖マーガレット教会

一七日、長寿を祝い、子どもたちの成長を祈る礼拝。阿部恵子司祭より祝福を受ける。新型コロナウイルス感染予防のため愛餐会は中止、婦人会からのプレゼントと助六寿司をお持ち帰りいただく。二三日、四年ぶりにバザーを開催。今回は外部には案内せず、教会員と市内三教会にのみ呼びかける。また聖ニコラス教会よりごませんべい、手芸品の出店協力

をいただき感謝。当日午前
小雨の予報も、突然雷を伴う
豪雨となり、外で焼き鳥の準
備をしていたスタッフが急
きよ予備のテントを張る事態
に：雨はお昼前には止みまし
たが、忙しい中お疲れさまで
した。

▽今金インマヌエル教会

九月は一〇日、藤井八郎司
祭、二四日、阿部芳克司祭司
式による主日礼拝をお守りし
ました。阿部司祭と真佐恵さ
んは初めての今金来訪で、礼
拝後に特製「男しゃく芋団子、
かぼちゃ団子」でおもてなし
会を開催しました。天沼久美
子さん宅の採れたて野菜で、
ご婦人方が手作りした出来立
て団子は、モチモチ、舌触り
滑らかで絶品！今金の地産地
消の恵みを感じる一時となり
ました。秋の訪れと共に農作
物は実りと収穫の季節です。
光あふれる田畑に神様の恵み
を感じ、感謝と賛美を主に帰
してまいります。

▽室蘭聖マタイ教会

高齢者の多い我々には厳し
い夏でした。体力のない我々

にとつて駐車場の管理は大変
でしたが、山本兄が草刈り機
で除草してくれました。六日
はヨブ記の勉強会で、司祭が
準備した資料で充実した内容
でした。一〇日は松井司祭司
式による聖餐式。二三日(土
も聖餐式。二六日は教会の財
政について協議しました。今
月は他教派の信徒も礼拝に出
席されました。

教会は少ない信徒ですが、
朝早く来て教会の掃除、礼拝
の準備に奉仕しております。
高齢者が多いため、病院との
付き合ひも多くなります。皆
様大事に。

▽深川聖三一教会

九月三日、委員会。七日、
教区婦人会総会に高木和枝会
長と甲斐富美子さん出席す。
九日、第五一回深川あけぼの
保育園運動会。晴天に恵まれ、
主題「あけぼのシー・パラダ
イス」として大漁・釣・大綱・
大舟の浮かぶ大海の大波の光
景が展開される。一三日、保
育園の職員会議、チャプレン
から日本聖公会が取り組んで
いるハラスメント(いやがら

せ)防止運動について話され
た。一七日、教会内外の清掃、
その後婦人会、高木会長より
総会報告。二四日、ロダ寺岡
淳子さんの逝去記念式、埋葬
式、記念会、魂の平安をお祈
り致します。

▽新冠聖フランシス教会

九月に入っても暑い日が続
いていましたが、ようやく秋
らしい日よりになって、朝夕
はめっきり涼しくなり、半袖
では過ごせなくなりました。

このところ、体調を崩され
教会へ足を運ぶ事も困難な方
もおられますが、一日も早い
ご回復を願い、共に聖餐を賜
わる事ができますよう願って
おります。

馬産地ならではの新冠聖フ
ランシス教会までの道程に
は、冬の蓄えとして、牧草を
丸いロールにしたものがあち
こちに転がっています。間も
なく日高山脈の稜線にも秋色
が訪れる頃となりました。

▽紋別聖マリヤ教会

九月に入っても珍しく残暑
が厳しいと感じる今年の紋別
も、半ばを過ぎて秋風が心地

よく吹くようになりました。
一〇日、主教巡回日。幼稚園
がコロナ感染拡大のために休
園していた事情があり、礼拝
は信徒のみ、愛餐会もなしと
なりとても残念でした。幼稚
園では、休園明けから行事が

目白押しで、越山園長によ
る鮭の解体ショー。その鮭
で「ちゃんちゃん焼き」を
作って昼食を皆で頂きました。
三〇日には運動会があり、
久しぶりに人数制限のない観
覧で、沢山の人の応援を受
けて子どもたちは大喜びでし
た。

▽北見聖ヤコブ教会

やっと涼しくなり感謝。礼
幌で行われた教区婦人会総会
に司祭夫人出席。司祭は教誨
師の全道大会に出席。教会周
辺の草刈りや礼拝堂のワック
スがけを二日間に行わたり行
う。お墓の聖別解除式を終え
られたご一家のご遺骨が間も
なく当教会の納骨堂に埋葬さ
れる。

主教巡回礼拝は九月一七日
に行われ、笹森主教より励ま
しのメッセージをいただき、

共にぶどうの収穫をし、心温
まるお交わりを賜わり、新し
い方や久しぶりの方々も加わ
り感謝でした。秋の背中がほ
んの少しだけ見えて来まし
た。

▽小樽聖公会

九月一七日(日)、み言葉
の礼拝。司式担当のAさん
連絡のないまま定刻になって
も姿を現さず携帯電話も通じ
ず一同心配する。礼拝終了後、
教会に来られ安堵する。聞け
ば、電気系統のトラブルでト
ネル内で電車が止まったま
まだったとか。ゆえに携帯は
不通状態。Aさんの姿、その
存在が平和を告げる。

二四日(日)、礼拝堂の寒
暖計が二〇度を示す。穏やか
な秋の日曜日。聖餐式を終え
て、出席者全員で清掃を行
う。その後、温かな番茶を頂
きながら懇談のときを持つ。
こんな何気ない日常が好い。

